HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	「オタク・ツーリズム」の研究
Author(s)	石森, 秀三
Description	視点日本の観光, 48
Citation	観光経済新聞, 2480, 2-2
Issue Date	2008-08-23
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/34700
Type	article
File Information	20080905195029031.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

週刊 観光経済新聞

2008年(平成20年)8月23日(土曜日)

視点 日本の観光

北海道大学観光学高等研究センター長　石森秀三

「オタク・ツーリズム」の研究

北大の観光学高等研究センターでは現在、山村高淑准教授を中心にして、オタク・ツーリズムの研究に着手している。近年の日本では、若者の「自動車離れ」や「スポーツ離れ」が問題になっている。昨年開催された国際オリンピック委員会の総会で、若い世代を対象にした「ユース五輪」の創設が決定された。

同様に、日本では近年、若者の「旅行離れ」現象が問題視されている。現に、海外旅行者総数に占める各年齢層の割合を00年と07年で比較すると、20歳代男性は約16%から約14%に、20歳代女性は約29%から約24%に減少している。

メディア技術の普及やコンテンツの充実が若者層のひきこもり傾向を助長しているという論評もあるが、その一方でそれらが新たな若者の旅文化を生んでいる点も積極的に評価すべきである。その典型例を「コミケ」に見ることができる。コミケとは70年代に始まるコミックマーケット(マンガやアニメ作品の同人誌即売会)のことだ。昨年夏、東京国際展示場で開かれたコミケには3日間で全国から延べ55万人が参加していた。その結果、神社への初詣客数は05年に6万5千人だったが、今年には30万人に急増している。アニメ・オタクの若者たちが「聖地巡礼」のために鷲宮町を訪れているわけだ。

アニメファンが地域のフ ァンになり、地域住民と交流しながら地域づくりに参画している。インターネットを通して情報を入手した アニメファンの「聖地」に なっている。鷲宮町商工会は昨年から角川書店や地元商店、ファンと協力して、積極的に商品開発や関連イベントを実施している。

日本ではすでに「オタク・ツーリズム」という現象が生じており、SIT(スペシャル・インタレスト・ツーリズム)の一類型として研究しなければならない。若者は若者なりに「新しい観光を生み出す原動力」として重要な役割を果たしつつあるといえるだろう。

海外のファンも来訪している。メディアコンテンツは国境を越えて共有されており、国内外の若者を惹きつける磁力になりうる。

日本ではすでに「オタク・ツーリズム」という現象が生じており、SIT(スペシャル・インタレスト・ツーリズム)の一類型として研究しなければならない。若者は若者なりに「新しい観光を生み出す原動力」として重要な役割を果たしつつあるといえるだろう。

例が見られる。その好例はアニメ作品「らき☆すた」の舞台となった埼玉県鷲宮町である。今や鷲宮神社は